



向陵広場

発行号 第24号
 発行日 平成30年 1月18日(木)
 発行元 向陵編集校友会
 責任者 伊藤有司 (県10回卒)

愛知県立豊橋商業高等学校の系譜

遠藤安太郎氏が明治39年に学校を創立してから今年で112年を迎えた。学校が現在の向山の地に移転するまでに統廃合、校名変更等多くの荒波を乗り越えて現在に至っている。

昭和18年10月に「教育に関する戦時非常措置方策」が発表され、男子商業学校は工業に転換するか、しからざる時は整理縮小しなければならなくなった。本校もこの余波を受けて工業学校に転換せざるを得なかった。昭和19年4月から一、二年生は工業校生、三年以上の上級生は商業校生として東田校舎で授業を続けた。昭和20年6月19日深夜の空襲により校舎は全焼し、焼け残ったのは体育倉庫、豚舎、講堂のみであり、講堂を間仕切り、仮設のテント張りで椅子だけの施設で、応急の処置で二部授業を行った。11月1日寒くなって仮設テントでは授業ができないので新川小学校の一部を間借りした。その後

昭和21年4月、第一予備士官学校歩兵隊跡に校舎を移転した。

昭和22年1月、愛知大学が開校されるに伴って市商は草間町の兵器補給廠東倉庫に移転した。さらに、

昭和23年10月本校は現在の向山の元工兵第三大隊に移転した。

昭和24年4月高等学校の再統合が行われ、単独の商業学校は廃止となり、新制高校の二・三年生は、そのまま旧校舎に残り、一年生は、各地元の高校に移っていった。

昭和26年4月県立商業高等学校独立設置について豊橋市当局、県・市議員等の尽力により向山の地に設置された。各学校に分散した生徒も戻ってきた。

(参考文献 豊商八十年史)

